



愛という
知らないもの

雨野小夜美

目次

- 1 サバイバーより
- 2 青い炎
- 3 くまさん
- 4 もうやめよう
- 5 夢の終わり
- 6 れんじとまめ太郎
- 7 トランプゲーム
- 8 愛なんて

サバイバーより

愛なんてもの全然知らないけど
僕が書いてるものはそのカテゴリーに入ってるのかな
愛というものを原稿用紙2枚以内で説明してくれよ
どれだけ頭悪くても納得のいくように

生まれる前に、聞いてきたんだ
死んだら、どこへ行くのかって
天国も地獄も、真っ暗でもない
記憶が、なくなるんだ
涙を痛いほど、握りしめて
あの曲を聴いた、記憶さえ消えて、なくなってしまうんだ

CDを売ったって、データは残るように
買った日の嬉しさ、寂しい思い出が残るように
誰かが君を売ったって、大切なものを失ったって
追い出されたって、君は君で生きていてほしい

愛っていうものを説明してよ
それはどこにあるのか
それとも人の名前なのか
「死なないでください」なんて聴きたくない
「死ぬな」って言ってほしかったんだ

人間は地球より、強い生き物だから
何を失ったって、死ぬやしないよ
生きていくのは、怖い事だけど
死ぬよりは、簡単なんだ

CDを売ったって、データはいつも通り歌う
誰かが君を売ったって、君の存在は消えたりしない
愛してなくても、君を救いたい
生きのびて生きのびて死ぬな

青い炎

炎になりたい。

会社員でも公務員でもなく、人間でもなく。

私は、炎になりたい。

ただ、振り向いてくれたあなただけを照らす、

青い炎になりたい。

ブランコをこいでいたんだ。

ブランコをこいでいたんだ。

ただそれしか無くて。

誰のグループにも入れなくて。

仲間と悪口を言うのと、

ひとりでのいるのと。

どっちがいいのかわからなくて。

ブランコの音しか信じられなくなって。

机の下にかくれて、誰にも会いたくないって本読んで。

叫んで叫んで、一晩中叫び続けて。

野獣もびっくりするような声で叫んで。

何の意味も無くて。

誰も来なくて。

言葉にしないと伝わらないに決まってて。

もう言葉にもならなくて。涙以上の言葉が出てこなくて。

炎になりたい。

世界中にひとりでもいい。振り向いてくれたあなたの、

青い炎になりたい。

頼れる人もいなくなって。

友達も失って。

家族にも見放されて。

行く場所も帰る場所も無くて。

何も無いのに、

足の踏み場が無くて。

幼稚園にこっそり入って、あせたピンクのタイヤの上で考えて。

青い炎になりたい。
70億人じゃなくて、
振り向いてくれたあなただけの炎になりたい。

寝てばかりになって。
あなたを傷つけて。
会話の無い日々が過ぎて行って。
あなたは何もかも捨てて、子供の頃に帰りたいって。
私は空が見たいって。
もうどんな空でもいいって。
耳が聴こえなくなってしまいたくて。

青い炎になりたい。
眩しすぎるものを作って、
誰よりもあなたに見てほしい。
あなたの両手の中の小さな炎になりたい。
あなたのやさしさに包まれて。
燃えて燃えて。
あたためて。

いつかあなたがしわしわの顔で、本当に笑ったとき。
祈って燃えてなくなるんだ。

くまさん

ダーリン また外で食べてきたの？

完全にメタボになってるわ

健康に悪いよ

健康診断にひっかかるよ

ダーリン 病気になって欲しくない

あなたの笑顔が消えたら私どうしよう

幽霊になってしまいそう

ダーリン でも一番嫌なのは

あなたがやせること

だってあなたはいつも

私だけのぬいぐるみだから

ダーリン 健康にいいものたくさん食べて

私、わがままだよ

頑張っておいしいもの作るから

もっと食べて

ダーリンいつまでも

私のぬいぐるみでいて

くまさんかな？そんな感じかな？

あなたのお腹をすりすりするのが好きなの

叩くとスイカみたいな音がするわ

笑っちゃうよ

それだけで私

明日もおいしいもの作ろうって思うのよ

私、変だよ

くまさんみたいなあなたがいいの

さわり心地のいいあなたがいいの

そのままです

大好き

ダーリン 健康診断の結果ちょっと
のぞき見ちゃったよ
ねえ愛って
私が幽霊になることなの？

もうたくさんの料理なんか作らないよ
健康にいい地味なものしか作らないよ
モノトーンの料理でいいよ

やせてほしくないよ
太ってほしくないよ
私は何を言ってるの？
これじゃ明日までに
幽霊になって溶けてしまいそう
やせてほしくないよ
太ってほしくないよ
だから何なの？
やせてほしくないよ
私のくまさん

ダーリン
あなたのお腹にさわることが
大好きだった
すりすりするの
叩くの

ダーリン
永遠の愛なんていうチープなセリフ
聴きたくない
私、わがままだよね

ダーリンいつまでも
いつまでも
くまさんじゃなくても うさぎさんでも 何でも
私だけのあなたでいて
くまさんじゃなくたっていいの

さわり心地なんかどうだっていいの

私は あなたがいいの



もうやめよう

だから何だよ
変なときに話しかけんなよ
ふさぎこんでるなんて
なぜあんたにわかるんだよ
ベッドでまるまってて
何が悪いんだよ
小学校のうさぎさんのマネをしてただけだよ
ねえ
行かないで

もうやめよう
もうやめよう
夢を見るなんてもうやめよう
もうやめよう
もうやめよう
想像するなんてもうやめよう

あんた耳あんのかよ
部屋入るときは
ノックしろって言っただろ
大丈夫?とか言うなよ
目薬をさしたの忘れて
20回くらいさしてしまっただけだよ
ねえ
ねえったら

もうやめよう
もうやめよう
人間なんてもうやめよう
もうやめよう
もうやめよう
ひとりで戦うなんてもうやめよう

もうやめよう
もうやめよう

オレには心配してくれるあんたがいる
もうやめよう
もうやめよう
もうやめるなんてもうやめよう

もうやめよう
もうやめよう
ひとりで過ごすなんてもうやめよう
もうやめよう
もうやめよう
八つ当たりなんてもうやめよう

ごめん
こんなひどいオレを見捨てないで
ちょっと考えてる夢があっただけ
あんたはこんなオレを
こんなひどいオレを照らそうなんて
なんか
太陽みたいだね

もうやめよう
もうやめよう
ひとりで考えるなんてもうやめよう
もうやめよう
もうやめよう
考えるうさぎさんなんてもうやめよう

もうやめよう
もうやめよう
大人になるなんてもうやめよう
もうやめよう
もうやめよう
夢をあきらめるなんてもうやめだ

夢の終わり

沖縄へ行った夢を見たんだ

ただの夢の話

聞かなくてもいいよ

仲良し8人組で

けれど僕の中では君以外はオマケで...

言えなかった

愛とか神様とか仏様でもいいやって

祈りながらジャンケンしたんだ

見事に君と違う部屋になって...

言えなかった

君のとなりにいたかった

君といっしょにいたかった

どんなどんな時でも

ああ そのちっちゃな幸せが

いつまでも続くと思ってたんだ

飛行機の中で

音をたてて流れる運命を

君の横顔を

じっと見ていた

ただ流されてゆくのが幸せで...

ああ 南国のこんな空なら

別行動の君に

叫んだら届いてしまうだろうか

こんな高いつつ抜けの空なら...

愛してても愛してなくても

もう誰を傷つけてもいいから

君といっしょにいたかった...

言えなかった

ああ 涙が止まらないような幸せが
これからも続くと思ってたんだ

神出鬼没の君 ガジュマルの木の下
泳ぐTシャツ 赤いハイビスカス

いっしょに作ったよね
アロマキャンドル
君が赤に近いピンクで 僕は薄い青

青春ってこんな香りがするんだね
午前5時の夢 夢の終わりに見た夢

れんじとまめ太郎

れんじが何度生まれ変わってもれんじであるように
まめ太郎は何度生まれ変わってもまめ太郎なんだ

今年のれんじはかわいい
例年より小さめのれんじ
人はそれを「ミニトマト」と呼ぶ

まめ太郎 こっち向いて
大きくて長い緑色の実をつける
人はそれを「きゅうり」と呼ぶ

でもれんじはミニトマトじゃない
まめ太郎はきゅうりじゃない
食べ物なんだ

変な天気 寒かったり暑かったり
でもれんじが赤いならそれでいい
まめ太郎が邪魔ならそれでいい

れんじとまめ太郎は 何度生まれてきても
れんじとまめ太郎 何度も生まれてきて
生で食うと美味しいから

トランプゲーム

世界を賭けるトランプゲーム 7並べかUNOかババ抜きか
ジョーカーはどこが持っているのか
肌の黒いイエス イエスじゃなかった 今度は女性か
ドロー4は誰が持っているのか

7並べでハートの6と8所持 民族を封鎖
王冠だけ 飯ももらえないはだかの王様たち
上には上がいる エースの上に2 アンチテーゼ
ジョーカーは誰が持っているのか

リモコンを押す 画面がパッと消える

ここに君と私がいる 君と私がいる
ここでストーカーも見ないようなトランプやってる
ドロー4で笑えるような ただ笑えるような
普通のトランプがいい
ジョーカーなんて エースなんて 誰が持ってもいいような...

世界を賭けるトランプゲーム ポーカーか大富豪か
燃えるような国 傾いたピザ 上しか見てない 下は見てない
皆 同じようなしかめ面で 選ばれるのを待っている
スペード 七三 ネクタイ 何を隠してるのか

リモコンを押そう そんなつままない事
神様を心配するような事
ジョーカーなんて 誰もいないのにさ
君と私がいる 君と私がいる それがすべて



愛なんて

手首切ろうとして 気が付いた
自分の手首が悔しいほど きれいだって事

どうしようも救いもなくなった時に
君にメールするんだ

メールなんかで救われるわけないけど
2分くらい 救われた気になる

去年の秋頃も そうだったかな
だからあたしは まだ生きてるんだ

愛なんて あるとすれば 君の事でしょう
だって それ以外には 見当たらないから
愛なんて 愛なんて 誰が考えたんだろう
あたしは その人 嫌いだな
人間なんて 結局 自分の都合でしょう
真夜中に 電話かかってきたら まず腹が立つでしょう
誰か 大切な人が 救いを求めているかも知れないのにさ

愛したいのは 結局 自分がそうしたいからで
メールやチョコまで押し付けてさ
だから 愛なんて あるとすれば君の事でしょう
だってわかるから
自分の都合じゃないから

だって君は 君は あたしに
「死ぬな」って言ってくれたから
親友の誰だって 兄弟だって 親だって 言ってくれなかったのにさ
愛なんて 空しいよ
中身の無い 言葉だよ
言葉は 恐ろしいよ

そのたった3文字に しがみついて
あたしは 毎日を 生きている

愛なんて あるとすれば その言葉でしょう

他の誰かに 伝えていくんだ

あたしは きっと これからずっと 伝えていくんだ

聴いてほしい 消えたいとき 聴いてほしい

死ぬな

愛という知らないもの

<http://p.booklog.jp/book/108443>

著者：雨野 小夜美

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/tinycolor/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/108443>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/108443>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ